

得意科目をどんどん伸ばそう
—得意科目の得意分野をさらに伸ばすための基礎知識—

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

『音階の練習ほど退屈なものはない。それでもピアニストは、大家になればなるほど、音階の練習を忠実に繰り返す。毎時間、毎日、毎週繰り返す。同様に、外科医も、優秀であればあるほど傷口の縫い目を正確に合わせるための練習を毎時間、毎日、毎週繰り返す。』

ピアニストは、何ヶ月も、あくことなく音階を練習する。しかし演奏の技術は、ごくわずかに向上するだけである。だがこのわずかな向上がすでに内なる耳によって聞いている音楽的成果を実現させる。

外科医も、何ヶ月もあくことなく傷口を縫い合わせる練習をする。しかし、指の技術はごくわずかに向上するだけである。だが、このわずかな向上が手術のスピードをあげ、患者の命を救うのである。

「達成」とは積み重ねである。

「達成」とは上手に行えないことを前より下手でなく行えるようになることではない。「達成」とは、すでに上手に行えることをはるかに上手に行えるようになることである。したがって「達成」は、生徒の強みに基づかなければならない。』

* P・F・ドラッカー著「ポスト資本主義社会」(21世紀の組織と社会はどう変わるか)ダイヤモンド社1993年7月刊332～333ページより引用

2. 「継続」すること

得意科目をつくったり、得意科目をさらに伸ばすための第一の条件は、「継続」することです。ピアニストが音階の練習を、毎時間、毎日、毎週するように、基礎的な勉強(作業)を「継続」すること。これが一番大切です。

「継続学習」こそが、得意科目をつくり、得意科目をさらに飛躍的に伸ばします。継続すべき学習(作業)の内容は、各科目や分野によって異なります。ピアニストや外科医のように確立したものが勉強の各科目にあるというわけではないでしょうが、自分自身で探し求め、自分なりの内容を確立すべきかと考えます。

例えば英語についての私の考えは次の通りです。

英語

①テキスト本文をただひたすら5回読む(只読)。とりわけ、今まで勉強したところはテキストの1ページから前回やったところまで、1回は必ず声を出して読む。②意味不明な単語は、ためらわず辞書をひき、意味をノートやテキスト内に書き込む。③書けなそうな単語は、これまた、ためらわず、書き取りの練習をする。

- * 最近の中学生や高校生用の英語の辞書には、大切な語句についてゆっくりとていねいに読めば、十分理解できる説明がなされています。
- * 高校入試の受験生は、これに加えて、全国の入試問題集を買い求め、1日に1都道府県の問題を解くとよいでしょう。大学入試の受験生は、赤本を買い求め、1日に1年分必ず解きすすめることを、継続学習の内容としておすすめします。過去の入試問題を解くときには、まず時間通り一通り解き終えること。そのあとすぐに解答を見ないで、教科書を学習するのと同じく、英文は全て音読し、辞書をひき、書けなそうな単語をその場ですべて書けるようにして下さい。その後、解説解答部分を、学校や塾・予備校で先生の授業を聴講するような謙虚さで、ゆっくりと、ていねいに読んで下さい。その際にもノートを取り、英文はすべて読む練習をし書けなそうな単語をすべて書き取る練習もして下さい。「模擬試験」を受けた後も、これと同様の方法で、確実に勉強して下さい。「学校や塾・予備校のテキスト」「過去問」「模試」をすべて以上の方法で、わたることなく確実にこなしていけば、必ず受験生にとって最も効果の高い英語の「継続学習」になります。

3. ためらわず上級学年や、上級学校の内容にまで入り込むこと

中学2年生なら、中学3年生や、高校1、2年生の勉強をすることをためらってはなりません。中学3年生であれば、高校生や大学受験生の学習内容に入れる科目が一つや二つあっても不思議ではありません。小学生が中学や高校生の勉強をしてもいいのです。高校生は、もちろん、大学の教養課程や専門科目、大学院生の勉強を科目によってはすべきです。遠慮したり、ためらったりする必要はまったくありません。なにしろ、あなたは、その科目が大好きで、勉強すればするほど頭がさえ、どんどん上の学年や上の学校の本を読むことができるからです。「すでに十分できる科目をさらにできるようにする」ためには、毎日の継続学習の内容として、上級学年・上級学校の学習内容をためらわず入れることが最も有効です。

大きな町の大きな「本屋さん」や、大きめの大学内にある「本屋さん」にいけば勉強すべき本は山のようにあります。

高校3年生の内容までなら、塾や予備校の先生に頼めばいくらでも上の学年の授業を受けさせてくれます。大学の内容を勉強したければラジオやテレビの放送大学を視聴することで可能です。放送大学のテキストは少し大きめの本屋さんなら売っています。

自分の可能性は自分で伸ばす以外ありません。自分の努力でひとつ得意科目をつくったら、誰に遠慮することなく、どんどん学習の内容のレベルを自分の所属する学年のワクを乗り越えた高いレベルのところまでもっていくこと。チャレンジ精神を勉強の面でも生かすことを希望します。

4. おわりに

勉強以外で自分のやりたいこと、得意なことを、思い切り高いレベルにまでもっていくこと。そのためにどうしたらよいか常に考え続けること。

ダラダラとイヤイヤ時間を過ごすことほどもったいないことはありません。どうせ何かに取り組むなら、きのうよりは今日、今日よりは明日、去年よりは今年、今年よりは来年と、少しでもよいかから向上するように努力を継続すべきです。

そうすればもっと上手にできるか、レベルが大幅に向上するかをいつも真剣になって考え続けるこ

とが自分自身の飛躍のためには大切です。ボランティア活動・趣味・スポーツ・旅行など、やりたいことはたくさんあるでしょうが、その中で一つ一つ本当に好きな分野・得意な分野を早く探し当て本気になって 10 年以上継続学習すれば、必ずその分野で一流となれ、人生が一気に楽しくなり豊かになります。お金をかける必要はありませんが、好きなことをやるのですからそれなりの努力は必要です。

ある程度の生活ができ、身の回りのものも随分そろそろ状況に日本は成り上がりました。これからは、減速経済の下で「内面的充実」や「自然と精神の調和」を考える時代となりました。人生の主人公である自分自身を最も生かせるものは何かを常に考え、自分の人生にとっての「得意科目」をさらに伸ばせるよう、みんなで知恵を出し合いがんばりましょう。〈P〉